

禁煙フロア●水口奈津子

朝礼のはじまる前にできる島われはどこへも上陸はせず
広島弁をときおり混じえ指示を出す支配人のよく動く口
見知らざる人のぬくもり残りいる羽毛布団のシーツをはがす
脚広げ笑う女はすべり落つ有料放送パンフレットの

姿見に映るもうひとりのわたし胸に一羽の鳩を養う

吐瀉物はさわらずさわがずすみやかに営繕の矢部さんお願ひします
昨夜何があつたとしても痕跡をとどめぬよう部屋メイクする

六十度のシャワーに洗い流したらユニットバスより匿名の風

今晚は鍋にしようか迷う手にさわさわシーツのさざ波の寄る

日本語の少し苦手なゲルリさん首筋にタトゥーの花を咲かせて

最上階に平田オリザとすれ違うサプライズあり窓をうつ雨

フロントの十八歳の緒方さんのアートネイルへお疲れさまを

更衣室のあかり消されぬ（うつかりと）いつしかわれはトーメイになる

やすらぎりこの世の電波の届かないトンネルの中、実家の玄関

飾るつもりなどなき夜の窓の灯よ遠ざかるほどうつくしく見ゆ

吾を支う信仰なければ足腰の筋力保持に日ごと励めり

平核無四角く剥いて朝ドラのよう展開せざる日々生く

スケボーで通勤しているSさんの館内放送の甘きテノール

肩籠にビニール袋を添わすコツささやくよう息を吹き込む

空調の設定温度を変更す禁煙フロア立冬の朝